平成二十五年度　児童生徒意見発表会　原稿

村田小学校　六年　石井　琴音

「今までも　これからも」

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、日本中、世界中を震撼させた東日本大震災。震源地であるここ、宮城県、そしてその他の東北地方沿岸で、誰もが想像すらしなかった大津波が来ました。そのため、津波を被った福島の原発、あの時からいまだに時間の流れが止まっている方々が、今も多く不自由な仮設住宅に暮らしています。

私は三年前から月に三回、村田公民館で安来節ドジョウすくいを習っています。とてもユーモア溢れる踊りで、見れば誰もが笑顔になる、そんな踊りです。震災が起きた夏、被害の大きかった沿岸部の避難所にいる方々に、少しでも笑顔と元気を届けようと、安来節有志で東松島市、仙台市荒浜など、数多くの避難所を周りました。テレビや新聞で見聞きしてはいましたが、本当に段ボールで仕切られた場所での生活があり、その様子に「グッ」っとこみ上げてくるものが感じられました。私も、地震で怖い思いはしましたが、比べものにならないものだったと思います。私はそこで、一生懸命踊ったのです。

でも、そこに見に来て下さった方々は、ほんの数人でした。「何でだろう？震災前までは色々な所に行くと大盛況。たくさん喜んで下さったのに…。今日はなぜ？　どうして？」

不思議でした。避難所の帰り道に母が言いました。

「色々な人が慰問に訪れ、励ましてくれる。だから、前を向いて元気に笑っていたいけど、津波での悲しさはそれ以上。もしかしたら、かえって迷惑だったかもしれないね。」

私はそれを聞いた時、初めて気付きました。行く先々で必ず役に立つと思っていた私の考えは、ちょっと違うのだと。きちんとその時の状況を考えて行動することも必要であると。これは、ボランティア活動だけではなく、全てに対してあるべきなのだと思いました。楽しい学校生活の中には、一人一

人の意見が違っていて、それをみんなで話し合いながら行動に移す。そうすれば良い方向に向かうはずです。困難を乗り越えられるはずです。私の行動も、きっと色々な形となって、みんなの役に立つことができるはずです。私は、そう思うようになったのです。

私は現在、小学六年生。あと半年で楽しい小学校生活が終わります。そう考えると、あと半年しかないと思いがちですが、違います。まだ、半年もあるということです。村田小学校の六年生全員で過ごすことができる日々が私にはあります。たくさんの思い出が作れる。だって、私には、仲間がいるから！

相手の気持ちを深く考えて行動すれば、学校の仲間だって、慰問の先々の方々にだって楽しい時間を過ごしてもらえる！　笑顔になって頂ける！そう信じて、私なりに、私が考えて相手を、そして仲間を思いやり、自分も一緒に困難に立ち向かいながら、一歩一歩前進していきたいと思います。

今までも　これからも！